

敦賀港だからこそ伝えられる「命」と「平和」

敦賀港は、1920年代にポーランド孤児、

1940年代に「命のビザ」を携えたユダヤ難民が上陸した日本で唯一の港。

当時の建物を復元した資料館「人道の港 敦賀ムゼウム」では、

孤児と難民が上陸した歴史、彼らに手を差し伸べた人々のこと、

そして敦賀のまちの人たちが迎え入れた様子を後世に伝えます。



Port of Humanity Tsuruga Museum

人道の港 敦賀ムゼウム

2020年 11月3日 リニューアル オープン

シアターで人道の港の歴史を紹介



新規デジタル資料、アニメーションを導入



撮影 フォワードストローク



アクセス

- バス JR敦賀駅3番のりばぐるっと敦賀周遊バス(観光ルート)「金ヶ崎緑地」下車
JR敦賀駅4番のりばコミュニティバス
松原線「金ヶ崎緑地」下車
- タクシー JR敦賀駅から約10分
北陸自動車道
敦賀インターチェンジから約10分
(駐車場:普通車128台、大型バス5台)
- 自家用車

開館時間 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで) ※11月3日は記念式典後、12:00に開館予定

休館日 水曜日(祝日の場合その翌日)、年末年始

入場料 一般500円[400円]、小学生以下300円[240円]、

4歳未満、障がい者およびその介護者は無料 ※[]内は20名以上の団体割引料金

所在地 〒914-0072 福井県敦賀市金ヶ崎町23-1

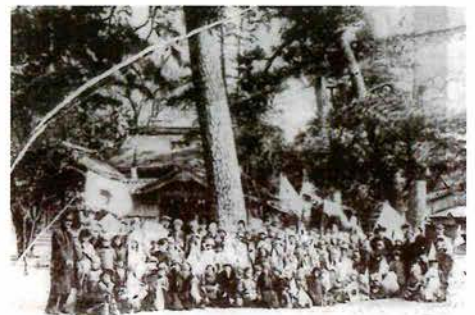
お問合せ TEL 0770-37-1035 Mail jindou@ton21.ne.jp

FAX 0770-37-1036 HP <https://tsuruga-museum.jp>

敦賀港には心温まる感動のドラマがあります

ポーランド孤児 763 人が敦賀港に上陸

ポーランド孤児とは、ロシア革命後の内戦状態であったシベリアで家族を失い、過酷な状況にあったポーランドの子どもたちのことです。孤児を救うために、日本赤十字社は1920～22年にかけて孤児の受け入れを行い、合計763人のポーランド孤児が敦賀港に上陸しました。当時の敦賀の人々は、菓子・玩具・絵葉書等の差し入れや宿泊・休憩所を提供するなど、温かい手を差し伸べました。



敦賀の松原でのポーランド孤児



敦賀港への上陸を待つユダヤ難民たち

[出典：朝日新聞記事1941(昭和16)年6月6日]

「命のビザ」を携えたユダヤ難民が上陸

1940～41年、ユダヤ難民はナチス・ドイツの迫害等から逃れるため、リトアニアのカウナス領事代理・杉原千畝氏が発給した「命のビザ」を携え、リトアニアからウラジオストクを経て、敦賀港に上陸しました。苦難の旅路を経て敦賀に降り立った彼らは、敦賀の街が「天国(ヘブン)に見えた」と後に語っています。上陸した彼らに当時の市民は、リンゴなどの果物を無償で配ったり、銭湯を無料で開放したりしました。

資料館のご案内

当館では、ポーランド孤児やユダヤ難民が上陸した歴史を学ぶための資料をはじめ、関係者から寄贈いただいた孤児の日記や難民が残した時計など貴重な資料を展示しています。また、孤児や難民に関する映像が視聴できる映像ライブラリーや、大型スクリーンを備えた研修室などを設けており、来館者の様々な学習スタイルに対応しています。

人道の港関連映像を視聴できるライブラリー



団体での学びにも最適な研修室



リニューアル記念特別展

今回の特別展では、ポーランド孤児とユダヤ難民に関して、これまで敦賀市に寄贈いただいた資料や市内に現存する資料を特別公開します。当時の資料から孤児と難民のエピソードを振り返ります。



上陸した難民の写真が納められた大迫アルバム

※ご来館の際には、新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いいたします。